岩手の風土記シリーズ（２４）　　遠野の不思議な旅

遠野物語で有名な遠野郷に足を踏み入れると、「ザシキワラシ」や「カッパ」等の妖怪が直ぐ近くにいるような感覚になるのは筆者だけであろうか。また遠野には数々の言い伝えがあるが、その伝承話にまつわる、不思議な場所も数多く点在している。カッパ伝説の「かっぱ渕」、姥捨て山伝説の「デンデラ野」等が有名である。今回は道の駅「遠野風の丘」を拠点として、遠野市綾織地区にある２つのスポットを紹介しよう。まずは、道の駅遠野風の丘までのルートだが、盛岡からだと東北道経由釜石道で行くのが最も早そうだ、裏道をゆっくりと行くルートとしては、県道 13 号線で花巻まで、そこから東和へ、釜石道東和 IC から遠野まで出るのもお薦めである。道の駅は令和 3 年 6 月にリニューアルしたもので、産直コーナーの襖にかわいい妖怪たちがいて、遠野らしさを醸し出していた。取材当日は昼すぎに着いたので、中の飲食コーナーの地元のお母さんたちでやっている「ゆめ咲茶屋」で天ぷらそばのセット（気まぐれランチ）とカッパ焼きを頼んだ。素朴でとても美味しかった。遠野といえばジンギスカンという方も多いと思うが、ブリキのバケツに炭を入れて焼くジンギスカンを提供しているお店もあった。ひとまず腹ごしらえが終わって、いよいよ目的地に向かうとしよう。まずは猿が石川の東側にある、不思議な岩「続石」について紹介しよう。道の駅から少し北上し、国道 396 号に乗り盛岡方面へ向かうと「続石」の看板が見えてくる。南部曲屋で有名な「千葉家」まで行くと行き過ぎとなる。小さいパーキングに車を止めて、いざ出発。結構急勾配な山道を 20 分位、息を切らして登り、やっとの思いでたどり着いた。体力に自信のない方は遠慮したほうが無難である。その場所は幾分平らな空間が広がっていて、早池峰山からの湧き水も引かれていた。その「続石」は少し奥まった所に鎮座していた。一見２本の台石に、大きな笠石が乗っていて、鳥居のような形に見えるが、実は片方の台石には接触せず、一つの台石にだけ乗っかっていて、微妙なバランスを保っている。先の大震災でも崩れ落ちることなくこの形を保っているとは、本当に不思議な岩である。続石の造型は自然のものではなく、弁慶が作り出したという言い伝えがある。初め弁慶は近くにある別の石の上に、笠となる石を乗せた。ところが、乗せられた石は「自分は位の高い石

なのに、その上に石を乗せられたままとなるのは残念である」と言って一晩中泣き続けた。そこで弁慶は別の石を台石として、その笠石を乗せ直したという。そして泣き続けた石もこの続石のそばにあり、泣石と呼ばれている。またこれらの巨石がある場所に少しだけ開けた平地があるが、ここは“弁慶の昼寝場”と伝えられている。上の乗せられた笠石の大きさは、幅７ｍ、奥行５ｍ、厚み２ｍという巨石であり、弁慶が持ち上げる時に付いたという足形が残っているという。奇異な巨石を見た人々が怪力の持ち主である弁慶が造ったものとして、ある種合理的な説明を残したのであろう。この続石の周りにはあちこちに巨岩が点在している事も不思議な事である。そして、何故弁慶が出てくるのか？という疑問が湧いてくる。やはり義経北帰行伝説がもたらしたものであろうか？なぜだか歴史ロマンの術中にはまっていきそうだ。つぎは猿が石川の西側、釜石道の少し西側の丘陵にある「五百羅漢」である。道が非常に分かりにくいので、道の駅の案内所で詳しく聞いてから行った方がよい。この五百羅漢は、「信濃のコロンボシリーズ」の遠野殺人事件の舞台になった所でもあるが、かなり辺ぴな場所で、観光客がたくさん訪れるような場所ではないような気がした。そのいわれは、宝暦５年（1755 年）、洪水に加えて南部藩（盛岡藩）四大飢饉（元禄・宝暦・天明・天保の飢饉）に数えられる大凶作で、南部藩全体で餓死・病死６万余人が出、翌年もその影響で遠野領内だけでも餓死者が 2500 人にのぼったという大飢饉となった。天明９年（1782 年）頃に大慈寺の義山和尚が宝暦や天明の大飢饉で餓死した数千人もの霊を供養するために刻んだものと伝えられている。苔むした花崗岩に刻まれた羅漢は、今もひっそりと供養が続けられている。この経路も結構難敵であった。駐車場まで何とかたどり着いてから、看板に従っていったが、最初は普通の道であったが、直ぐに登り坂になり、岩場をよけて歩くような小道であった。湿気がつよく、苔むした岩があちこちにあり、滑りやすいので注意が必要である。トレッキングシューズを履いてきて正解であった。この道はかなり奥まで続いているようであり、その両脇に掘られた羅漢像の岩が点在していて、本当に不思議な感じがした。また同時に義山和尚の功績

に頭が下がる思いであった。この道はかなり奥まで続いているが、道の駅の案内所で余り奥に行かない方がいいよと注意されていた。奥に行くとクマとの遭遇する危険性があるらしい。このように遠野には、不思議な場所がまだまだたくさん点在している。かっぱ渕もいかにもカッパが出そうな雰囲気であるし、閉校した小学校にはザシキワラシがいるとも言われている。今回紹介したのはほんの一部に過ぎない。皆さんも是非訪れて、遠野の不思議を体感してみてはいかがでしょうか？さらに、遠野といえばどぶろく特区第１号で名を馳せており、有名な品種がいくつもあるようだ。また、ホップ生産量日本一の地ビール、「ズモナビール」や地元産の山ブドウを使った遠野山ブドウワイン「遠野」などもあり、アルコール好きには、たまらない場所でもある。これらのお酒は道の駅でも販売しているので、立ち寄った際には是非お土産にいかがでしょうか。

参考資料

IBC 岩手放送　「わがまちバンザイ　遠野綾織町編」
遠野市ホームページ　www.city.tono.iwate.jp-
遠野市観光協会ホームページ　https://tonojikan.jp